

平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	2	講習名	【選択必修】児童生徒の力を伸ばす授業改善				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
下崎邦明	広島キャンパス	6 時間	全教諭, 養護教諭, 栄養教諭	30 人	講義・ 演習	筆記	
開催日	8 月 2 4 日 (土)		予備日	8 月 2 9 日 (木)			
【到達目標】 主体的な学びの意義と具体的な手法について習熟し、授業の中で戦略的に使用でき、児童生徒の力を伸ばす授業ができる力を身に付ける。							
【講習の概要】 主体的・対話的で深い学びについて、歴史的経緯を踏まえて、その意味を理解し、それを実現する方法について、具体を通して理解を深める。また、学習者を起点とした能動的で深い学びを実現するための授業方法及び評価の方法について具体例を通して学び、実践的な指導力を身に付ける。							
【講習の内容】 講義 1：コンピテンシー・ベースの学びと授業改善の意義（担当：下崎邦明） 今日の変化の激しい社会にあって、コンピテンシーをベースとした学びへの転換が必要であることについて、また、これまでの学びの変遷や授業改善の取り組みについて理解を深める。さらに、現在、広島県で進められているコンピテンシー・ベースの学びと授業改善との関連及び意義について理解を深め、コンピテンシー・ベースの学びにおける授業デザインと具体的な進め方についての基本を学ぶ。							
講義 2：単元の「逆向き設計」と授業の「責任移行モデル」の実際（担当：下崎邦明） 学びにおいては、なぜ学ぶかという目的・何を学ぶかという内容・どのように学ぶかという方法が、三位一体のものとして捉えなければならないことを理解する。これを踏まえて、目的としてのカリキュラム・マップづくりについて、内容としてのグラント・ウィギンズ、ジェイ・マクタイによる単元設計における目標からの「逆向き設計」について、方法としてのダグラス・フィッシャー、ナンシー・フレイによる指導者から学習者への「責任の移行モデル」について、その理論と方法を理解し、それぞれの実践例をもとに意見交換をおこない、実際の授業を進めるにあたっての具体を学ぶ。							
講義 3：アクティブラーニングの手法の実際（担当：下崎邦明） 100 を超えるアクティブラーニングといわれる手法について、特に有用と思われる手法をできるだけ多く取り上げ、基本的な原理や具体的な進め方学ぶ。これらの手法のうち代表的な手法数例について、受講者が実際に体験することを通して理解を深め、授業において実際に使用できるようにする。							
講義 4：評価のあり方と今後の展望（担当：下崎邦明） 評価について、その基本的な考え方と課題について理解を深める。現在、各受講者が実際におこなっている評価について、相互交流することを通して振り返り、コンピテンシー・ベースの学びにふさわしい評価のあり方について展望する							
【備考】 試験の際、講義資料とノートの持ち込みを認める。 門戸千幸教授：義務教育の観点から、状況に応じてグループワーク等における受講者への助言などを行う。							

